

WEBGUARDIAN V3.5.00 for Linux リリースノート

WEBGUARDIAN V3.4.00 for Linux から WEBGUARDIAN V3.5.00 for Linux において、以下の機能追加および修正／変更を致しました。

1. 新機能、機能改善

本バージョンでは、以下の新機能の追加および機能改善を致しました。

(1) プロキシキャッシュ機能の追加

WEBGUARDIAN サーバに、プロキシのキャッシュ機能を搭載致しました。

(2) ダウンロードデータの容量制限機能の追加

規制ルールにおいて、従来のバージョンでは送信リクエストに関するルールのみ設定が可能であったことに加え、本バージョンではダウンロードのデータサイズに対する設定も可能と致しました。

(3) 上位プロキシ複数指定機能の追加

従来のバージョンでは、WEBGUARDIAN サーバに対する上位プロキシサーバの設定は 1 台のみでしたが、本バージョンでは複数台設定することを可能とし、アクセス先 URL によって、使用する上位プロキシを選択することを可能と致しました。

(4) Windows ドメインとのシングルサインオン機能の追加

プロキシ認証において、Windows ドメインとのシングルサインオン機能を搭載し、Windows ドメインのユーザ ID による規制ルールの適用や、WEBGUARDIAN のログ出力などとの連携を可能と致しました。

(5) 大容量ファイルへの対応改善

本バージョンより、WEBGUARDIAN を介する一回の通信において、2GB 以上のデータのアップロード/ダウンロードが可能となるように対応致しました。

(6) オーバーライド機能の追加

規制ルールの適用によりリクエストがブロックされた場合に、表示されたブロック画面で指定されたパスワードを入力することにより、ブロックを一定期間解除するオーバーライド機能を搭載致しました。

(7) グループ管理機能の改善

プロキシ認証名や IP アドレスなどによるクライアントのグループ化機能において、グループ設定時のアップロード登録を、単一グループごとの個別登録に加え、複数グループの一括登録が可能となるように致しました。

また、独自認証機能にて作成したユーザをグループとして加えることが可能となるように致しました。

(8) 独自認証機能の改善

独自認証機能のユーザ管理において、ユーザ情報を記載したファイルをアップロードすることによる一括登録や追加する機能に加え、ファイルを元にした一括削除が可能となるように対応致しました。

(9) プロキシ認証の除外リクエスト機能追加

プロキシ認証を実施している場合、クライアントの IP アドレスやアクセス先 URL、User-Agent を条件に、特定のリクエストを認証対象外とする設定が可能となるように対応致しました。この機能により、Windows Update やアンチウィルスソフトのパターンファイルアップデート等、プロキシ認証に対応していないアプリケーションが自動的に行う通信に対して、認証エラーとなる問題を回避することが可能となります。

(10) URLDB ライセンス更新時期通知機能の追加

URLDB ライセンスの更新時期が近づいていることを管理者へ通知する機能を搭載致しました。

(11) パスワードロック有無の判定機能

ウェブアクセス上で発生したファイルの送信に対し、パスワードロックの有無による規制ルールの設定が可能となるように致しました。

※本バージョンで対応しているアプリケーションファイル

- ・Microsoft Excel Ver. 4, 5, 95, 97, 98 for Mac 2000, 2001 for Mac, 2002, 2003, 2007
- ・Microsoft PowerPoint Ver. 95, 97, 2000, 2001 for Mac, 2002, 2003, 2007
- ・Microsoft Word Ver. 6, 95, 97, 98, 2000, 2001 for Mac, 2002, 2003, 2007
- ・PDF ファイル Ver. 1.2, 1.3, 1.4, 1.5 1.6, 1.7
- ・ジャストシステムー太郎 Ver. 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, Lite, 2004, 2005, 2006, 2007

2. 修正

WEBGUARDIAN V3.4.00 (GUARDIANSUITE V4.3.00) までに含まれる、以下の不具合を修正致しました。

(1) 未対応の機種依存文字が検査用キーワードとして登録できてしまう不具合

キーワード検査機能では未対応である機種依存文字を、検査用のキーワードとして登録できてしまう不具合を修正致しました。

(2) 終端まで書き込んだテープからのリストアがエラーとなる不具合

バックアップデータがテープの終端まで書き込まれている場合、そのテープからのリストアがエラーとなる不具合を修正致しました。

(3) 管理サーバ起動時に関連スクリプトが起動失敗と表示される不具合

WEBGUARDIAN のプロキシ独自認証機能が無効に設定されている状態で、管理サーバの OS を起動もしくは再起動すると、OS 起動時の標準出力に WEBGUARDIAN 関連スクリプトの起動失敗を示すメッセージが表示される不具合を修正致しました。

(4) ログ収集処理が異常終了した場合に一時ファイルが残存する不具合

検査サーバから管理サーバへのログ収集処理が異常終了した場合、検査サーバ上の不要な一時ファイルが残り続ける不具合を修正致しました。

(5) 個人情報検査機能で大量のメモリが消費される不具合

WEBGUARDIAN の個人情報検査機能にて、大量のメモリが消費される不具合を修正致しました。

(6) URL グループの設定内容によりサービスが起動しなくなる不具合

複数の URL をグループ化する設定において、1 つの URL グループ内の設定内容が 8KB を超える場合に、WEBGUARDIAN のサービスが起動できなくなる不具合を修正致しました。

(7) 独自認証機能でユーザ登録のアップロード時に一部文字化けする不具合

独自認証機能において、ユーザ情報の登録をファイルのアップロードで行った場合に、名前欄の一部の漢字が文字化け、または削除されて登録される不具合を修正致しました。

3. システム要件

WEBGUARDIAN V3.5.00 for Linux を利用するには、以下の要件を満たしたハードウェア／ソフトウェアが必要となります。

【Linux 版サーバ条件】

- OS : RedHat Enterprise Linux AS/ES 4
: RedHat Enterprise Linux 5
(次のパッケージがインストールされている必要があります。
ed、tcl、compat-db、compat-libstdc++、mt-st、libstdc++-devel)
- CPU : 上記 OS が動作する IA-32 (Pentium 以上)、
Intel64 プロセッサ (Itanium2 は非対応)

【管理用クライアント条件】

- OS : Windows XP/Vista
- ウェブブラウザ : Internet Explorer 6.0sp2, 6.0sp3, 7.0sp1, 8.0
- その他条件 : ブラウザの JavaScript が有効であること

以上